

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (11月30日、3月8日実施)	総合評価(3月16日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	キャリア教育の推進を通して各学部の教育内容・方法を見直し、系統性・一貫性のある教育課程を編成し、授業改善に取り組む。	①本校としてのキャリア教育の考え方をさらに浸透させながら、学部間・部門間で連携して授業実践・授業研究・授業改善に取り組む。 ②新学習指導要領を踏まえながら系統性・一貫性のある教育課程編成に向け検討を進める。	①各学部での研究及びアシストミーティングの実施・ICT機器の活用・学習環境の工夫(ユニバーサルデザイン)に日々取り組みながら授業研究・授業改善を進める。 ②教育課程検討会議を設置・開催し、新学習指導要領も踏まえた教育課程のあり方について検討する。	①キャリア教育の考え方をさらに浸透し、授業研究・改善が進んだか。(教職員対象アンケートによる肯定的評価80%以上)。 ②新学習指導要領を踏まえ、系統性・一貫性のある教育課程の編成に向け具体的な方向性が示されたか。	①夏季休業中に全体研修会を実施した。また、学部研究でアシストミーティングの手法を取り入れ授業研究・改善に取り組んだ。また、学部内の年間指導計画を授業別に整理したりキャリア教育の視点から各単元のねらいを整理したりした。(教職員アンケートでの肯定的評価80%) ②夏季休業中に全般について研修会を実施したり、担当係内で担当教科等を分担して読み合わせを行ったりした。また、「道徳」について、本校としての考え方・教育課程上の位置付けについて整理した。	①学部等で研究を進める中でさらに理解を深めるとともに授業実践を検証し、改善に取り組む。 ②「道徳」については、次年度以降具体的に実施する。その他については、本格実施に向けて教育課程編成を進める。	①研究を月1回、学部を越えた縦割りで取り組んでいるのは良い。アシストミーティングは短時間ででき、かつ有効なものなので引き続き取り組んでほしい。ICT機器はアプリも含めて上手く活用できれば有効な手立てである。また、時代の変化を見据えた活用を考えると重要である。政治参加教育で行った選挙に関する学習はリアリティーがあり、社会参加に向けてよい取組であった。	①全体研修会や学部研究を通じて、キャリア教育についての考え方が浸透しつつある。授業改善が児童・生徒の学びの連続性や一人ひとりに応じた指導の充実につながるよう取組をさらに進める。 ②「道徳」について本校の考え方を整理できた。	①アシストミーティングの実施やICT機器を活用した授業に取り組みながら授業研究・授業改善をさらに進める。 ②実際の授業を行いながら検証・改善に取り組む。
2	児童生徒 指導・支援	児童・生徒一人ひとりが健康で安全に、かつ、安心して教育活動に取り組めるよう専門性の高い指導を行うとともに校内指導体制を整備する。	①「学部コーディネーター」を核とした学部・部門内での相談・支援の充実を図る。 ②ヒヤリハットの集約・共有に引き続き取り組むとともに、対応策についても確実に実施し、児童・生徒が安全に安心して学校生活を送れるようにする	①各学部に「学部コーディネーター」を置き、PT・OT等と連携しながら「校内相談シート」でニーズの把握やアセスメント・ケース会議に取り組む。 ②ヒヤリハットの集約・共有の取組意義を確認し、朝の打合せ等において速やかに全教職員でヒヤリハット事例を共有し、対応策を確認する。	①「学部コーディネーター」を核に、各学部内での相談・支援が充実したか(教職員・保護者対象のアンケートによる肯定的評価80%以上)。 ②ヒヤリハットの報告書が昨年度の件数(80件)を上回ったか。また、対応策を確認し実施できたか(教職員対象のアンケートによる肯定的評価80%以上)。	①各学部の状況に応じ、学部長や専任コーディネーターと連携しながら、「学部コーディネーター」を核に、生徒情報の共有やケース会議の開催につなげることができた。(教職員アンケートでの肯定的評価68%) ②2月末段階で66件の事例を学校全体で共有した。ヒヤリハット事例を共有することで「自分にもかわりのあること」と認識して再発防止の意識が高まった。(教職員アンケートでの肯定的評価93%)	①一部の学部では「学部コーディネーター」の役割が十分周知できていなかったため、役割を明確にし、担えるよう計画する。 ②報告されていないケースを洗い出し、報告するよう促し、全校での共有をあらためて周知徹底する。	①「学部コーディネーター」の役割等について周知・確認するための研修を設定するのはどうか。アセスメントの方法が学年によって変わるところが気になった。学校としての見識が必要ではないか。(保護者アンケートでの肯定的評価86%)	①一部の学部では「学部コーディネーター」が情報共有やケース会議の開催まで行うことができた。アセスメントのあり方について学校全体での方向性を検討する必要がある。 ②昨年度比で若干減ったが、全校でヒヤリハット事例を共有できた。	①「学部コーディネーター」の役割の周知をさらに進めながら、学部・部門内での相談・支援を充実させる。 ②ヒヤリハットについては、引き続き報告と共有に取り組む。
3	進路指導・ 支援	児童・生徒一人ひとりが卒業後に地域社会で自分らしく暮らせるよう、個々のライフキャリア・ワークキャリアを見据えた進路指導・支援を行う。	①小学部段階から保護者向けの進路学習会等を計画・実施し、進路支援に関する関心・理解を高める。 ②キャリア教育の視点を踏まえて、作業学習・職業のあり方について見直しに取り組み改善を図る。	①小学部、中学部、高等部でそれぞれの段階での進路・支援の研修会を計画・実施する。 ②本校・分教室ともに他校の取組や工夫について情報収集を行い、改善案を検討し、試行する。	①進路学習会を実施し、参加した保護者の関心度・理解度が高まったか(アンケートの肯定的評価80%以上)。 ②作業学習・職業のあり方について見直し、改善が進んだか(教職員・生徒対象アンケートの肯定的評価80%以上)。	①1月に小・中学部保護者対象の進路懇談会を実施し、小学部12名・中学部9名の参加があった。アンケート結果からはほぼ全員が興味・関心を持ったとの肯定的評価を得た。 ②作業学習のあり方について学部会で検討を進めている。分教室では作業班の見直しを行い、事務サービス班を立ち上げた。(教職員アンケートでの肯定的評価85%)	①今後は参加者をどのように増やし、興味・関心を高めるかが課題である。 ②これまでの取組の良い点を生かしつつ、キャリア教育の視点や今後の社会の変革を見据えて検討を進める。	①進路学習会を他の会合と抱き合わせにする等の工夫により参加者を増やせるかもしれない。また、高等部3年の保護者懇談会を前・後期に行う等工夫できるとよい。(保護者アンケートでの肯定的評価87%) ②分教室と高校とは、校舎内の清掃や名刺発注等を通して連携をしている。(生徒アンケートでの肯定的評価93%)	①参加した保護者については興味・関心を持ってもらうことができた。開催方法等について検討する必要がある。 ②キャリア教育の視点や今後の社会の変革を見据えながら学習内容の整理を引き続き進め、新たな作業学習・職業のあり方を示す。	

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (11月30日、3月8日実施)	総合評価(3月16日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	地域のセンター的機能の充実を図るとともに、地域との交流の機会を積極的に設定し、交流を深めることを通して共生社会の具現化に貢献する。	①教育相談コーディネーターを核に校内の人材を活用しながら学校コンサルテーションを充実させる。 ②井田小・住吉高に加え中学校との交流について検討・実施につなげるとともに、ボッチャを中心にパラスポーツを通じて地域の方との交流の機会を増やす。	①地域の小学校等へ出向く際に、各学部所属の教員も同行し学校コンサルテーションを行う。 ②学校間交流及びパラスポーツ推進について、それぞれプロジェクトチームを中心に、各学部・部門と意見交換しながら進める。	①校内の人材を活用しながら学校コンサルテーションを実施できたか(学部所属教員1回以上実施)。 ②学校間交流及びパラスポーツ推進を通じた地域との交流が計画・実施できたか(教職員・生徒・地域対象アンケートの肯定的評価80%以上)。	①年度末までに巡回相談3件に学部コーディネーターが同行する予定。 ②小学部では2・3学期に井田小学校との交流を実施した。学校全体としては、ボッチャを授業に取り入れたり夏余暇で保護者や家族と取り組んだりした。また、教員向けのタグラグビー講習会を実施した。(教職員アンケートでの肯定的評価85%)	①引き続き校内の人材を活用して学校コンサルテーションを充実させる。 ②小学部と井田小との交流は、ねらいを共有し来年度も定期的な実施を目指す。地域に向けては、イベントへの参加や学校としての発信できる機会を設定するなどして地域交流を進める。	①中学校との交流も実施できると良い。住吉高と分教室の日常的な交流ができると良い。ボッチャによる地域交流・他校交流等ができれば素晴らしい。卒業生の経験者と呼んだり校内で大会等を行ったりすると良い。(保護者アンケートでの肯定的評価90%、生徒アンケートでの肯定的評価83%)	①校内の人材を活用した学校コンサルテーションが始まった。引き続き充実に向けて取り組む。 ②ボッチャについては教職員や保護者・児童生徒にも理解が広がり普及してきた。 ③パラスポーツはボッチャやタグラグビーを高校生や地域との交流の機会にできるよう引き続き企画・検討を進める。	
5	学校管理 学校運営	専門性の高い人材の育成と保護者や地域から信頼・信用されるよう開かれた風通しの良い学校づくりを行う。	①教職員の専門性を高めるための研修体系について整理し、「中原スタンダード」を策定する。 ②個人情報・文書取扱いに係る不祥事をなくす。 ③近隣関係機関や保護者等と連携しながら実践的な防災教育・訓練を進める。	①学部長・GL会議を中心に本校の研修計画・内容を精査し、体系化に取り組む。 ②個人情報・文書取扱いのルール徹底とヒヤリハット事例の集約・共有を行う。 ③DIGや非常食喫食訓練・非通知のシェイクアウト等、実際に想定した防災教育・訓練を近隣関係機関や保護者の参加・見学も含め実施できるよう計画する。	①「中原スタンダード」として研修体系を整理できたか。 ②個人情報・文書取扱いに係る不祥事がなかったか。 ③実際に想定した防災教育・訓練を実施できたか(教職員・保護者・生徒対象アンケートの肯定的評価80%以上)。	①「中原スタンダード」としての研修体系原案をまとめることができた。 ②重要情報は回覧せずロッカーで閲覧したり提出物の有無や処理について担任間で声を掛け合ったりするなどして不祥事をなくした。 ③分教室でDIG、本校で非通知シェイクアウトを実施した。また、防災訓練では、地域施設職員・保護者が参加し、施設設備の見学や備蓄食料の喫食を行った。(教職員アンケートでの肯定的評価86%)	①作成した枠組みに基づき研修を実施するとともに、内容の精査・改訂を進める。 ②今後も個人情報の取扱いについてルールを遵守するとともに“机クリーンデー”を設けるなどして机上整理等についても意識して取り組む。 ③今後、地域の防災訓練に参加するとともに地域の関係施設との合同防災訓練等の実施についても検討する。	①「中原スタンダード」を整理したことで研修の全体像が把握でき、また、研修の目的が明確化されたことは良かった。 ②不祥事防止のためのスローガンが職員から出るのは素晴らしい。手順書を各自が守れるよう点検や見直しも大事である。 ③DIGは校外だけではなく、校内についても行うことも有効ではないか。帰れなくなることを想定した宿泊型の防災訓練を行っているところもある。自力通学の生徒の登下校時や休み時間等、様々なパターンを想定した現実的な防災訓練も考える必要があるのではないか。(保護者アンケートでの肯定的評価96%、生徒アンケートでの肯定的評価95%)	①研修体系を整理できたので、具体的な実施と検証が今後の課題となる。 ②個人情報の取扱いについては、教職員一人ひとりが意識を高め不祥事がなくなっている。引き続き気を引き締め、取り組むことが重要である。 ③DIGやシェイクアウト、喫食訓練等を実施できた。休み時間や校外活動時等、様々な状況を想定した訓練の実施について検討する。 ④様々な状況下でも児童生徒の安全を確保できるよう、防災訓練の実施方法・内容等について校内及び校外関係者と検討する機会を設定する。	